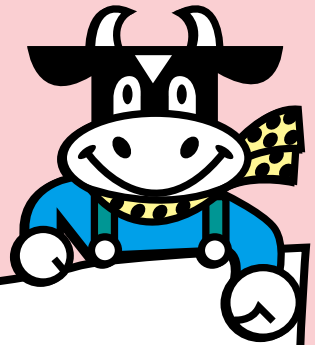




# ワンポイント・アドバイス



## 牛白血病

近年、全国で牛白血病の発生報告が急増しております(グラフ1)。当地区でもしばしば認められています。あまり聞きなれない病気が、もしかしたら、簡単に話した話しいと思います。



グラフ1：最近10年間で発生頭数が著しく増加しています。

**牛白血病とは**  
牛の場合、白血病のほとんどは牛白血病ウイルス(BLV)感染が原因で起こります。牛白血病を発症するのは、その内の数%ほどです。牛白血病になると腫瘍が体表、腹腔内など全身にできます(写真1)。このウイルスは血液中のリンパ球(白血球)に感染し増えます。発症したものではありません。リンパ球がガン化し、全身のリンパ節に転移、このような腫瘍(リンパ肉腫)を形成するのです。一般症状では、食欲、元気がなくなる、乳量の減少、痩せてくる、眼の突出などがあります。現在の所、有効な治療法はありません。感染牛の多くは無症状です。

が、ウイルスは消えることがなく、一生持ち続けることとなります。また牛白血病を発症した場合は、届出伝染病となり、人に感染することはありません。

### 感染要因とその対策について

空気感染はありませんが、色々な形で感染が起こります。感染血液を介して人為的に、吸血昆虫などにより感染がおこります。また同居感染、子牛の胎内感染、分娩の際の産道感染、牛乳を介する感染もおこります。

牛白血病の防御の基本は摘発、淘汰です。しかし、知らずしらずの間に感染が広がってしまう事もあります。感染率が高い場合は、新たな感染を抑える事が清浄化の大きなポイントになります。対策をしつかり行えば、感染は十分防ぐことができます。



写真1：白血病の発症例。リンパ節の腫大が見られます。

### 人為的感染..

ごく少量(約千分の1ml)の血液を介しても感染します。除角など出血を伴う作業の際の器具等の洗浄・消毒を徹底します。注射器や直検手袋の連続使用を禁止します。

### 吸血昆虫による感染..

アブなどの吸血による感染です。できるだけ吸血昆虫の駆除を行います。

### 同居感染..

感染率はそれほど高くありませんが。感染牛と非感染牛を隔離することで、感染する機会を減らすことができます。

### 乳汁感染..

初乳を低温殺菌処理(60℃30分の加温処理)して与えることで感染を予防することができます。処理していない場合は、感染牛の初乳を与えないようにしましょう。

### 子宮内感染・産道感染..

清浄化を進めることが大切です。

発生頭数の増加が続いている現在、関係者が一体となり清浄化に取り組んでいくことが必要だと思われま